

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校
平成26年度自己評価表

評価基準
4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

1. 教育理念・目標

評価項目	H26評価	H26達成状況	H27に取り組むべき課題等
・教育理念等を明文化しているか。 ・教育理念等を教職員に対して周知徹底を図っているか。 ・教育理念等を公表しているか。	4	・本校パンフレットにて周知している。 ・Webサイトにて公表。入学者および保護者には入学ガイダンスにて周知している。 ・在校生・教職員には学生手帳を配布している。	・特になし
・教育目的・目標、教育計画が文書化され、提示されているか。	4	・カリキュラム、シラバスを作成し、よりわかりやすい形で学生に提示している。 ・カリキュラムは、臨床実習施設にも配布。 ・シラバスはWebサイト「本校のHP」から時間割と共に閲覧可能。	・特になし

2. 学校運営

評価項目	H26評価	H26達成状況	H27に取り組むべき課題等
・理事会、運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	4	・理事会、岩崎学園管理職の会議、本校教務部会議・学科会議・各業務会議・朝礼を開催。	・特になし
・事業計画が定められているか。	4	・年度ごとに定めている。	・特になし
・予算・収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	・有効かつ妥当に運営できている。	・特になし
・就業規則等は定められているか。	4	・定められている。	・特になし
・教職員一覧表(採用年、資格、年齢、学歴等記載)はあるか。	4	・月次で更新している。	・特になし
・業務分掌は適切か。	3	・年度ごとに各業務係(図書・備品、国家試験対策、学校行事、臨床実習、FD)を決定し、遂行している。	・新学校種創設に合わせた移行準備プロジェクトチームを設け、準備を進める。
・人事考課は制度化されているか。	4	・夏冬賞与時、年度末実施。	・特になし
・出勤が適切に管理されているか。	4	・タイムカードまたは出勤簿、届出を月次管理。	・特になし
・公印が管理されているか。	4	・「公印簿」に記載。	・特になし
・教職員の健康診断を実施しているか。	4	・年1回実施(平成24年度は4/10に実施)。	・特になし
・情報システム化等により業務の効率化が図られているか。	4	・学籍管理、成績管理、証明書発行、学生募集等システム化。学生に配布するシラバス・教材等はネットワーク上サーバにてアクセス可能にしている。	・特になし

3. 教育活動

評価項目	H26評価	H26達成状況	H27に取り組むべき課題等
・シラバスのとりまとめと学生への周知はできたか。 ・シラバスの活用方法について情報を収集し、検討したか。	3	・開講前に各教室にシラバスの冊子を配置し、学生ネットワークに時間割と共に開示した。 ・配置時に、各科目担当教員や担任より学生への周知・活用を依頼した。	・ネットワーク上での公開について検討する。
・育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。	4	・総単位PT123・OT120単位(指定規則93単位)。教育課程および授業時限数、学則は所管の神奈川県厚生労働局に提出済である。	・特になし
・カリキュラムは事前に学生に周知しているか。	4	・学校説明会にてカリキュラム一覧を配布している。	・入学オリエンテーション時に学生に配布し、説明を行う。
・カリキュラム作成に高校生の現状を反映させているか。	4	・学生募集イベント「体験入学」にて入学前の高校生に模擬授業を展開し、学校を知ってもらうと同時に高校生の現状を把握している。 ・入学試験では受験生全員に個別面接を課しており、生活習慣、学習習慣、社会適応力などについて聴取し、必要なカリキュラム改定を実施している。 ・教職員4名が県立高校4校にて評議委員を務め情報収集している。	・特になし
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	・学校関係者評価委員会及び実践教育課程編成委員会にて、情報を収集している。 ・就職指導部との連携により病院・施設等の採用ニーズ「求められる人材像・具体的な技術・知識」を聴取している。 ・臨床実習における症例報告会では他職種との意見交換を実施しており、その状況を臨床実習訪問時に情報収集している。 ・関連分野のプロである多数の非常勤講師と意見交換を実施している。 ・臨床実習訪問時に、卒業生の状況、学校への評価などについて随時聞き取り調査を実施している。	・臨床実習訪問時の聞き取り調査票の見直しを検討する。
・社会のニーズや学生の質に合わせたカリキュラムの見直しはできたか。	4	・新カリキュラム移行において、各留年者については読み替え表を基に対応した。	・特になし
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	・シラバスに記載・学生へ周知している。	・特になし
・教員の採用について、専門性確保の観点から基準が設けられているか。	4	・学歴、業務経験等、担当科目により基準を設けて取り組めた。	・引き続きの方針で実施する。
・授業スキルの向上のため、校内職員研修会を充実させ、組織として「確かな学力」、「考える力」を育成するための授業づくりを推進し、学生への指導スキルの向上を目指したか。 ・学生による授業評価(授業アンケート)の結果において、授業に対する積極性の向上は見られたか。 ・授業アンケート結果を受け授業の見直しを行ったか。 ・授業アンケートの活用方法について情報収集を行ったか。 ・教員の外部講習会への参加がみられたか。	3	・平成26年度の学内教員研修会では昨年度の「9～13期生の留年・退学・4年実習・国試卒試と成績・出身校との関連性について」の報告の追加検討として、関連が深かった授業について、学生の意識調査を実施し、その報告を行った。その結果、成績良好な学生ほど、単なる暗記に留まらず、考え理解した後暗記していることが改めて示され、授業展開においてもできるだけ学生の理解を促すよう教員間で認識を深めた。 ・授業アンケートは適正に実施され、結果のフィードバックも行われた。 ・教員間の授業参観は実施できなかった。 ・教員の外部講習に関しては、ほとんどの教員が参加し、例年より積極性が見られた。	・学内教員研修会については、教育力向上という観点から、授業の録画とそれを利用した検討会等が候補に挙がっている。今後検討する。 ・外部講習会の活動計画と情報交換を行う。
・教員の指導力向上のための研修会の開催や外部機関での研修参加を促進することができたか。	4	・年度初めに年間研修会予定を学科会議で検討し、教員の参加を促した。下記の教員・教育研究会にはPT学科3名、OT学科3名の教員が参加した。 ・また、26年度内に27年度の研修会予定を提示し、教員の参加を促した。	・引き続き、研修会の参加を促し、報告会を実施する。

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校
平成26年度自己評価表

	・非常勤講師との定期的な情報の共有を図っているか。	3	・年度替わりに次年度の「教務のしおり」を郵送し、確認をお願いしている。また、個々の教員が自分の教科の関連や担任として、非常勤講師との情報交換を実施している。	・教員間差があるため、共通認識として是正を図る。
	・担任業務サポート業務のマニュアル化において、昨年度作成したマニュアルの検証を行ったか。 ・そのマニュアルに調整を加え次年度の本実施に向けたものが完成したか。	4	・概ね実施された。	・適宜マニュアルの見直しを行い、より良い活動に促す。
臨床実習	・実習依頼がスムーズに行えたか。 ・必要な実習施設の確保ができたか。 ・回答結果、承諾書の集計と管理ができたか。 ・実習施設からの申請書、契約書の管理ができたか。 ・回答結果に対する公文書の送付がスムーズに行えた	3	・実習依頼、実習施設確保、承諾書の集計と管理、実習施設からの申請書、契約書の管理は滞りなく実施。 ・回答結果に対する公文書の送付については一部、回答結果の入力の誤りがあり、2施設に対し訂正の文書を送付した。	・回答結果の入力はダブルチェックを実施し、公文書の発送前に再度チェックをかけているが、その時点での訂正ができなかった。今年度は他の方法でチェックをかけ、発送する。 ・発送時メール便を使用していたものはすべて郵送に変更する。
	・実習開始までに、厚労省への申請手続きが終了できたか。	4	・滞りなく実施した。	・継続 (・実習施設の登録が関東厚生局から県に変更となっている)
	・円滑な実習を実施できるような、指導者会議を企画・実施し、出席者数の増加や臨床教育の向上につながったか。	4	・滞りなく実施した。	・継続 ・理学療法学科においては次の実習より実習指導報告書(3年次・4年次)が変更となり、周知するための会議となる。出席者が増加するように工夫をしていく。
情報公開	・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	3	・希望受験者・保護者には、授業を公開している。 ・カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開している。 ・授業アンケートの結果については、各科目担当者が学生にフィードバックを直接行うのみで、まだ公開はしていない。	・授業アンケート結果及び対応などの公開に関しては継続し検討する。

4. 教育成果

評価項目	H26評価	H26達成状況	H27に取り組むべき課題等	
資格 ・学生全員に障害者スポーツ指導員が認定されたか。	4	・H26年スポーツ指導者資格取得認定校の手続きを実施した。 ・4年生全員の障害者スポーツ指導員の認定手続きを実施した。 ・1年生全員の障害者スポーツボランティア体験のサポートを実施した。 ・教科担当とFD業務担当との業務分担を明確にし、各業務分担に沿って実施した。	・H27年スポーツ指導者資格取得認定校の手続き ・4年生全員の障害者スポーツ指導員の認定手続き ・1年生全員の障害者スポーツボランティア体験のサポート	
卒業研究 ・卒業研究発表会において、研究の成果を質の高い形で発表できたか。 ・卒業研究発表会において、円滑な会の運営ができたか。	4	・研究課題の選択や論文作成・スライド作成に多くの助言が必要であり、教員の負担が大きかった。 ・発表会は円滑で、質問も多く出された。	・新カリキュラム対応学年では、卒業研究までに研究形式を経験していないため、助言の増加は否めない。研究手法の検討、実施等学生の能力に応じた指導を検討する。	
国家試験 ・卒業試験	・国家試験における問題解説および分析を行い、国家試験についての対策(学生オリエンテーション、特別講義など)を図る。	3	・第50回国家試験結果は、PT:94.7%(新卒:94.3%、既卒:100%)、OT:88.6%(新卒:91.2%、既卒:0%)であり、全国平均であるPT:82.7%、OT:77.5%を上回る合格率となった。しかし、理学療法学科で4名、作業療法学科で4名の不合格者が出た。	・国家試験の傾向、対象学生の状況など、情報を整理して学生指導に反映される分析を継続していく。 ・特別講義開始時期を検討し、更に早期化を進めていく。
	・卒業試験において、趣旨に沿った選考基準が策定できたか。卒業判定が適正かつ公正に実施できたか。	4	・今年度より、年3回の卒業試験をオリジナルにて実施した。試験問題の精度向上のため、試験作成者に昨年度作成問題の正答率提示・難易度配分依頼を行った。また、今年度より卒業試験基準点を事前に決定した。	・試験問題の精度を向上させるため、依頼方法・問題校正作業の体制、合格基準等の検討を継続して行っていく。
	・国家試験実力試験において、趣旨や時期に沿った試験問題を選考・実施できたか。学生の国家試験勉強進捗の指標になったか。	4	・業者模試を含め、年間13回の実力試験を実施した。分野別の正答率(平均点を含め)を提示し、学生個々の苦手分野への指導ツールとして利用できた。	・分野別正答率を学生へ提示し、国家試験対策の有効なツールとして実施していく。
臨床実習	・「実習の手引き」等の内容を充実させ、学生のスムーズな実習領域の実現に役立つものとなったか。	4	【理学療法学科】()昨年度 ・1年見学実習;85名修了 (90名修了)。 ・2年次体験実習;合格82名、不可2名 (合格77名、不可0名) ・3年次臨床実習;合格79名、不可1名:自己中止 (合格66名、不可0名) ・4年次臨床実習;合格72名、不可2名:うち1名自己中止 (合格78名、不可3名) 【作業療法学科】 ・1年見学実習;41名修了。 ・2年基礎実習;介助技法の習得は、授業・実技を学内で実施。介護老人保健施設等での1週間の実習も45名修了。 ・3年次臨床実習;不合格未実施1名。細項目にD評価のついた学生8名を対象に、担当教員をつけ個別指導を実施。追加実習を4名実施し、全員合格。 ・4年次臨床実習;合格36名(追加継続実習者6名含む)、不合格者2名。	【理学療法学科】 ・「実習の手引」の指導報告書の評価項目を具体的にみるような見直しが行われ、今年度はその効果を検討しながら4年次に落とし込む。 【作業療法学科】 ・「実習の手引」の学生課題・指導報告書の評価項目において、学生が行動化しやすいようにより具体的に見直しを行う。
	・臨床実習後の症例発表とグループディスカッションを通して、実習の振り返りや理学療法士・作業療法士としての今後の課題を学生自ら明確にしたか。	3	・実習で得た知識・経験、次期実習に向けた課題、臨床に臨むための課題等を振り返る機会を設けた。	・必要に応じて教員との面談を実施する。
留年・退学者防止	・強化組対策としての学習法の習得が再試験科目の減少につながったか。 ・成績不良による留年・退学者数の減少ができたか。	4	【理学療法学科】 ・1年生(17期生)の再試の平均数は1.24と昨年度(16期生)1.12とわずかに増加しているものの、留年者数は1年生(17期生)3名と昨年度(16期生)6名の半分に減少出来た。 ・2年生(16期生)の再試の平均数は0.97と昨年度(15期生)0.66よりもわずかに増加したことに加え、留年者数も2年生(16期生)8名と昨年度(15期生)5名からの増加に至ってしまった。 ・3年生に関しては進路変更による退学が1名いるが、再試数は0.50とほぼ例年同様であった。 【作業療法学科】 ・強化組の前年1年次の対象学生の再試科目数は1.71であったが不合格なし。前半期分とのクラス総合平均と強化組の平均の乖離は、前期2年次は+1.84点、3年次は+1.77点、後期1年次は+3.69点、2年次は+1.96と前後期共に強化組の平均値がプラスに生じる結果となり、平均との乖離が少なくなった。	【理学療法学科】 ・学力低下者に対する補講の検討と今年度3年生(16期)に対する対策を強化する。 【作業療法学科】 ・強化組対策または早期の国家試験対策をトライアルとして実施する。

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校
平成26年度自己評価表

	<ul style="list-style-type: none"> ・退学率の目標を設定しているか。またその成果は十分か。 ・退学率の低減策が教職員に共有されているか。 ・留年・退学結果について検証・報告を行ったか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度は、留年率3.9%(20人)・退学率は3.3%(17人)であり、目標とした4%以内に留まった。 ・入試の面接はグループから個別に切り替えた2年目であり、志望動機の高い学生の確保を目指した。 	・退学率・留年率を4%以内を継続する。
卒業生	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の社会的活躍や評価を把握しているか。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・各関連学会や学会誌での卒業生の動向を把握し、学校説明会などにおいて紹介した。 ・実習施設訪問時にアンケートを実施した。 	・実習訪問時のアンケート調査票を、継続的な変化を捉えられるようなものになるように検討する。

5. 学生支援

評価項目	H26評価	H26達成状況	H27に取り組むべき課題等	
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や服装、遅刻など基本的な生活習慣の確立、社会性・公共性を育む指導・支援ができたか。 ・様々な教育活動において、社会人・医療人としての精神の育成に向けた支援ができたか。 ・学習状況実態調査で学生全体の生活習慣や学習環境を把握できたか。 ・実習で指摘された社会性(情意面)についてまとめ、その結果を支援に生かすことができたか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めは、新入生に社会性や公共性に欠ける言動の学生が散見されるため、基本的な生活習慣と社会性について指導した。 ・また、実技授業等においても随時社会人・医療人としての資質の育成・向上に向けて指導を行った。 ・学習状況実態調査等は26年度は実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣と社会性については継続した指導を行う ・マニュアル的な獲得にならざるを得ない学生も在籍するため、より個別性を重視した指導を行う
行事	<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭などの活動において学生が主体的に活動し、リーダーシップやコミュニケーション能力などの育成に向けた支援ができたか。 ・学校行事の充実に向けた支援ができたか。また、参加率が90%以上に到達したか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭マニュアルの見直しを教員指導の下、行い学生がより主体・主導的に動けるよう支援した。その一方、教員主催で地域作業所の出店は昨年度に引き続き企画し、地域・障がいをもった方との触れ合いを経験した。 ・学園祭時間内の定時清掃を実施した。 ・参加率はどのクラスも90%以上であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭での地域作業所の出店は次年度も継続して行い、障がい者との触れ合いの機会を増やす。 ・引き続き、学生が主体的に楽しめる学園祭の実施を支援する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・効率よく行事が運営できるよう、全体の年間予定表・各行事のマニュアルの再調整を行い、業務の連携及び効率化を図れたか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事は少数担当制とし、責任の所在を明確にした。それにより各行事ともスムーズに滞りなく実施できた。 ・業務全体の流れを一覧にし、年間を通して見えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者の入れ替えがあるため、滞りなく進められるようこれまで以上に連携を強化する。
個別指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の情報交換を定期的に行い、心身の健康問題への適切な対応ができたか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面談に加え、必要に応じて随時面談を実施し、必要に応じてスクールカウンセラーの利用を促すなど心身の健康問題等への適切な対応を行った。 ・週1回学科会議にて定期的に学生に関する情報交換を行い情報を共有した。 	・特になし
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の面接・面談の記録があるか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学生カルテを作成し、学生のプロフィール・緊急連絡先及び面接の記録、臨床実習の記録を保管している。 	・特になし
	<ul style="list-style-type: none"> ・就職・進路について相談できる担当者がいるか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、国試担当教員、就職指導職員が対応にあたった。 	・特になし
健康管理・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の健康診断を定期的に行っているか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回実施(平成26年度は4/4実施) 	・特になし
	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪・薬物・消費トラブル等の指導を行っているか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・4/21薬物乱用防止セミナー実施 	・特になし
就職支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就職指導支援体制整備 ・就職内定率目標(年内60%・年度内100%)の達成 ・学生の就職希望データベース化 ・既卒者対象求人情報データベース化 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・特設Webサイトにて、求人票、先輩の活動データなどの照会可能。 ・「就職ハンドブック」を配布。履歴書の書き方、面接マナーなどをいつでも再確認できる。 ・年内内定率60%、年度内内定率100%を目標としたが、未達。(年内:41.7%、年度内:94.8%) ・各種データベースを作成し、教職員の情報共有・活用ができた。 ・OBによる就職支援講義を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年内内定率60%、年度内内定率100%の達成に向け、教員と就職指導担当との連携をより高め、国試対策の進捗が順調な学生から早期内定を促していく。 ・新たに複数の施設を招いた学内合同就職説明会を実施予定。学生の受験への意識向上と内定の早期化を図る。
災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策マニュアルを整備し、災害発生時の指導を行っているか。 ・万が一に備え、保険加入しているか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・戸塚消防署の協力にて避難訓練ならびに教職員に対する通報訓練実施。 ・安全確認メーリングリストを整備。 ・災害時用食料、防寒具を備蓄。 ・災害対策マニュアルが本校の実態に即しているかについては引き続き精査が必要。 ・「東戸塚駅周辺混乱防止対策連絡協議会」設置にかかわる連絡会に参加。 ・災害時用食料については賞味期限の確認、および補充を実施した。 ・通学時・学内外の実習においての賠償責任保険に加入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応マニュアルは現在関連部署と検討中である。
経済援助・活動援助	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金等の経済的支援があるか。 ・学費減免、学費分納制度があるか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学生支援機構奨学金に対応、岩崎学園奨学金を整備。 ・入学時および定期試験にて待生選抜を行い、学費等の減免を行っている。 ・学費分割納入を制度として実施。 	・特になし
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報提供は行われているか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への便り(成績、出欠状況等を前期・後期期末時に送付) 	・特になし
	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会はあるか。 ・卒業生へ学校情報を提供しているか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・10/26学園祭同時日に横リハ同窓会「たんぼぼ」主催公開講座実施。 ・「臨床現場でのリスク管理について～治療・再発予防の観点から～」同日総会実施 ・タンポポニュース配信(9/30) 	・特になし
	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動を支援しているか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・フットサル・ボランティア・バスケットボール・野球・陶芸・バレーボール・バドミントン・テニス・チャリーディングのサークル活動を顧問・補助金で支援している。サークルで活用するロッカーも必要に応じて割り当てて使用できるようにしている。 ・H26年度より新たにプラスバンド、一輪車サークル発足 	・特になし

6. 教育環境

評価項目	H26評価	H26達成状況	H27に取り組むべき課題等
------	-------	---------	---------------

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校
平成26年度自己評価表

教室	・教室の数・広さ、実習室の数・広さは教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	・実習室の数、広さについては養成校設置基準に準拠している	・特になし
	・教室以外に休憩スペースが適切に置かれているか。 ・食堂や運動施設など教育環境を補完する施設が整備されているか。	4	・地下一階に学生ホール完備。各フロアに休憩スペース完備。 ・体育館、箱根研修所、岩崎ミュージアム(コンサートホール)所有。	・特になし
	校舎全体およびAV機器等の経年劣化に随時対応する。	4	・前年度予定していた断熱工事は見送りとなった。 ・603視聴覚教室AV機器を更新した。	・8F講堂OA機器経年劣化に伴い更新実施。 ・各階手洗いの刷新
	・自宅学習を奨励するための設備を提供しているか。	4	・全学生ノートPC(ソフト)貸与し、導入時に最新の環境を提供している。 ・デジタル国家試験教材(LASQ)の更新を行った。	・新たにスマートホンを利用した国家試験対策教材を導入予定
図書	・図書室利用者数の増加ができたか。 ・蔵書を増加したか。 ・図書室を整理し使用しやすい環境設定ができたか。	4	・教職員より蔵書希望のアンケートを実施。蔵書の増加を実施した。	・図書活用を推進するために、新規購入蔵書について周知を行い、蔵書利用者の増加を図る。 ・検討事項あり(蔵書購入の時期検討・学生に蔵書希望をとるか)
	・WEB利用者数は増加したか。 ・メディカルオンラインの利用者数は増加したか。また、適正に利用できたか。	3	・WEB検索システム導入のため、導入作業を継続している。データベース(文献情報)を検索システムに入力中である ・メディカルオンラインの利用については、適正利用された。	・引き続きWEB検索システムの導入作業を行う。 ・メディカルオンラインの利用については、引き続き適正利用と利用者増加を促す。
設備・備品	・最新機能を備えた機器、実習室などは整備されているか。	3	・視聴覚実習室の改修工事を実施した。プロジェクター関連機器を中心に高性能タイプにモデル変更した。平成27年度より講義などで活用していく。	・教育に必要とされる機器について募集をかける。
	・各種マニュアル作り、破損・危険箇所への安全対策や備品の修理・新規購入が迅速に行われたか。	4	・前後期ごとに教務室内、倉庫内(2階、3階)を中心に物品の点検・整理を実施、不足品、欠品については、修理・補充を行った	・備品の不足、破損に迅速に対応する。

7. 学生募集

評価項目	H26評価	H26達成状況	H27に取り組むべき課題等
・学生募集計画があるか。また成果は十分か。	4	・定員は充足した。	・高校生の受験動向の変化への対応した入試制度の立案・実施 ・新設大学設立を受けた組織的・計画的な募集プログラムの立案・実施。 ・学力・向上心ともに高い学生の受け入れを目指す。
・入学案内書には以下の内容が明示されているか。 育成人材像、目指す資格・検定試験、学費・教材費、入学者選抜方法	4	・「入学案内書」「学生募集要項」に明示。	・特になし
・入学に関する問い合わせに適切に対応できる体制ができているか。	4	・入試事務局が対応。 フリーアクセス0800-800-4508 infoyrc@iwasaki.ac.jp 希望に応じて個別相談実施。	・特になし
・学校説明会等において入学情報を提供できているか。	4	・「学校説明会」年間10回開催。 学校紹介・各学科紹介・教員紹介・職業講話・入学説明・校舎案内を実施。 ・「進学説明会」年間2回開催。 入試面接対策講話・入試情報・分析、個別相談を実施。	・特になし
・体験授業等で入学後の自分をイメージできるイベントを開催しているか。	4	・「ビギナーズリハビリ体験ゼミ」年間4回開催。 ・体験ゼミ、また参加者に対し病院見学を実施した。	・特になし
・入学辞退者の授業料返還が適切に処理されているか。	4	・手続きについては「学生募集要項」記載。平成27年度生は辞退者6名(返還は5月に完了)	・特になし
・入学予定者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4	・入学ガイダンス(4/4・5)、オリエンテーションを実施。 学生生活、授業内容、学習方法、PC操作などを指導。	・特になし

8. 社会貢献

評価項目	H26評価	H26達成状況	H27に取り組むべき課題等
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・高校生向け講座:「仕事のまなび場」(夏休み4講座)・「総専協夏季公開講座」(夏休み4講座・秋1講座)小中学生向け講座:「小中学生のためのチャレンジスクール」(夏休み1講座、秋冬2講座)その他、中学校・高校より依頼を受けて、職業講話などを行っている。	・特になし
・学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか。	4	・学外者と学生との事故も想定し、安全確保を図りながら、学校休業日に教室・体育館を貸し出している。 ・地域の老人クラブイベントに施設を提供している。	・特になし
・ボランティア、募金などの社会活動に参加しているか。	4	・毎年12月にチャリティバザーを開催し、売上金を各社会福祉団体等に寄付している。	・特になし
・地域に対する公開講座などを主催しているか。	4	・学園祭時等に地域住民も参加できる公開講座を行っている。 ・地域シニア層への講座(3回)行った。	・特になし

9. 法令等の遵守

評価項目	H26評価	H26達成状況	H27に取り組むべき課題等
・法令や専修学校設置基準を遵守しているか。	4	・所管の神奈川県へ学則変更等届出実施、現況調査(学生数・教職員数・卒業状況等)実施した。 ・ISO29990の認証を有効に活用した。	・特に課題はない
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	・個人情報保護規程を文書化。「学生募集要項」記載。	・作業中の書類等の管理に注意する
・自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善につとめているか。	4	・自己評価は、学校運営の一部(授業アンケート、保護者アンケート、教職員の自己評価等)となっていた。平成24年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、本形式にて実施している。	・PDCAサイクルの徹底に努める

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校
平成26年度自己評価表

<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法教育施設評価(第三者評価)受審対策に向けた情報収集を行えたか。 ・世界作業療法連名(WFOT)の「作業療法士教育の最低基準」の条件に満たしており、認定校として登録させているか。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校連絡協議会の講習会に参加し今年度受審校の現状を得た。 ・WFOTの認定は2012年度から2016年度まで登録更新済。 ・ISO29990については2015年5月8日をもって終了 ・職業実践専門課程の認定を受け、文科省にその第三者評価が設置され、検討会議委員に本校も参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き情報収取に努め受審準備を進める。 ・文科省の第三者検討会議委員に本校も継続参加し予定。
<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果を公開しているか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度公開した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題はない